

日本陸水学会 第82回大会

仙北市田沢湖大会

プログラム



2017年9月28日(木)～10月1日(日)

田沢湖高原温泉郷 駒ヶ岳グランドホテル

【目次】

アウトライン	2
会場へのアクセス	3
会場案内図	4
発表者の方へ	5
講演プログラム	
9月28日	6
9月29日	7-9
9月30日	10
ポスターセッション	11-13
課題講演	14-16
自由集会	17-18
陸水学会若手の会 E 会	19
展示企業リスト	20
ランチョンセミナー	20
懇親会のご案内	21
昼食のご案内	21
公開講演会	22-23
エクスカージョン	24

【アウトライン】

【各種委員会】

9月28日(木) 10:00-12:00	拡大幹事会	会議室2
9月28日(木) 13:00-14:30	和文誌編集委員会	会議室2
9月28日(木) 13:00-14:30	英文誌編集委員会	会議室3
9月28日(木) 13:00-14:30	企画委員会	会議室1

【評議員会】

9月28日(木) 20:00-23:30		A会場
----------------------	--	-----

【総会・表彰式】

9月30日(土) 9:00-12:30		B会場
---------------------	--	-----

【一般講演・課題講演】

9月28日(木) 15:00-17:30		A・B会場
9月29日(金) 9:00-12:00		A・B会場
	13:30-18:30	A・B会場
9月30日(土) 15:00-17:45		A・B会場

【ポスターセッション】

9月29日(金) 19:30-21:30	(審査対象発表)	2F第2ロビー
9月30日(金) 13:00-15:00		2F第2ロビー

【ランチョンセミナー】

9月29日(金) 12:15-13:15		A会場
----------------------	--	-----

【自由集会】

9月28日(木) 18:30- 又は 20:00-		各会場
---------------------------	--	-----

【E会】

9月28日(木) 20:00-		会議室1
9月29日(金) 21:30-		会議室1

【懇親会】

9月30日(土) 18:30-21:00		ロイヤルホール
----------------------	--	---------

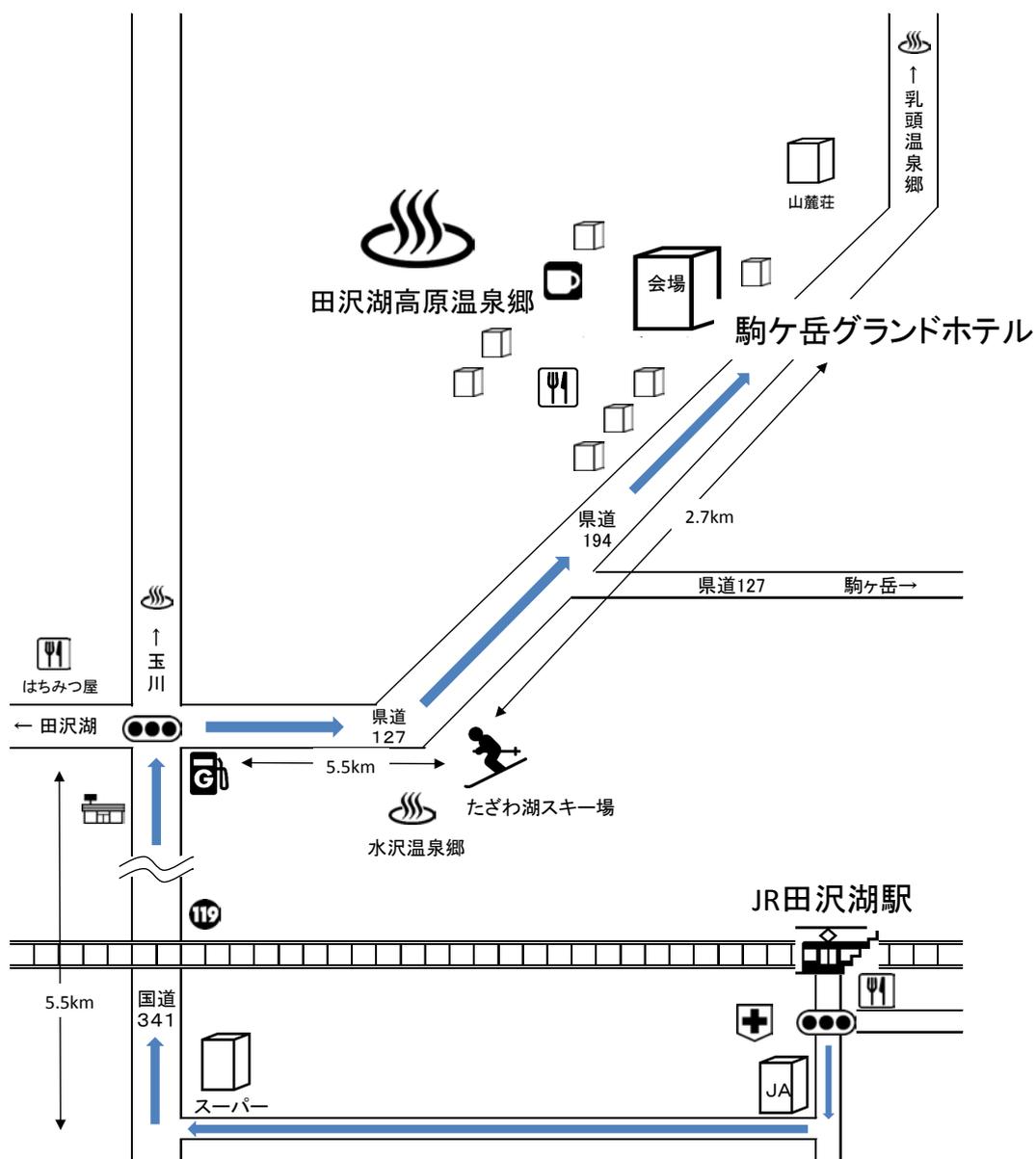
【エクスカージョン】

10月1日(日) 8:30-13:00		田沢湖
---------------------	--	-----

【公開講演会】

10月1日(日) 13:00-17:00		生保内小学校体育館
----------------------	--	-----------

【 会場へのアクセス 】



大会会場

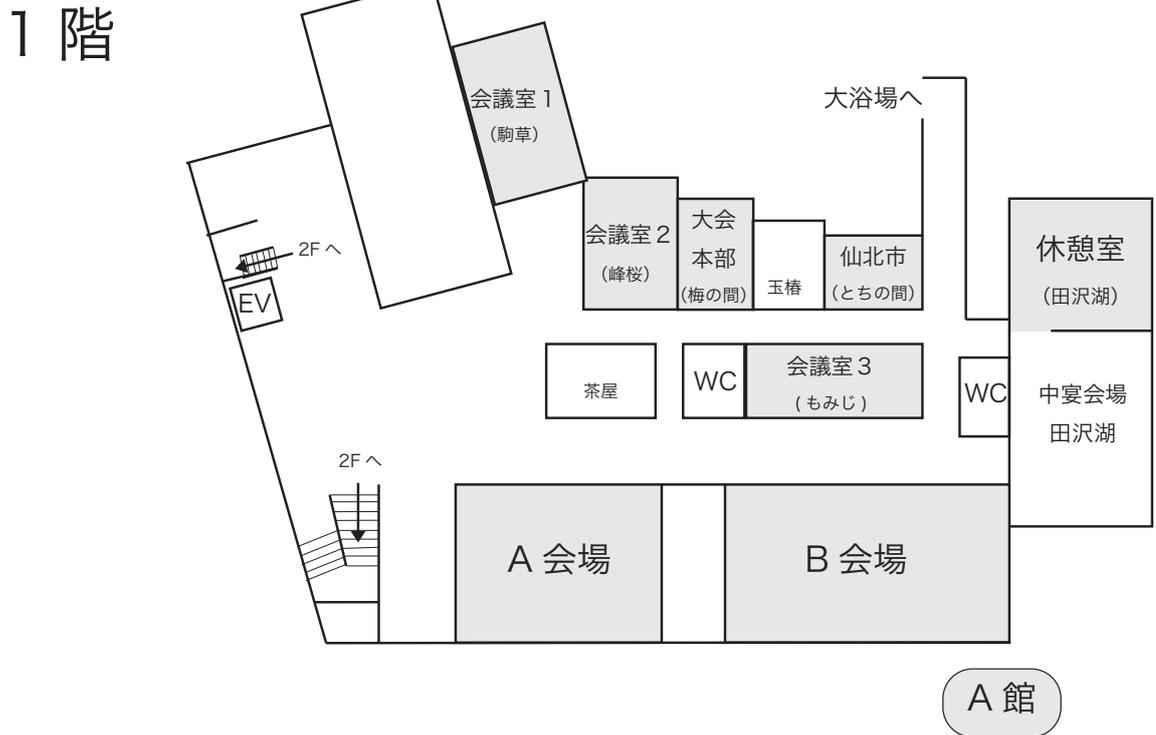
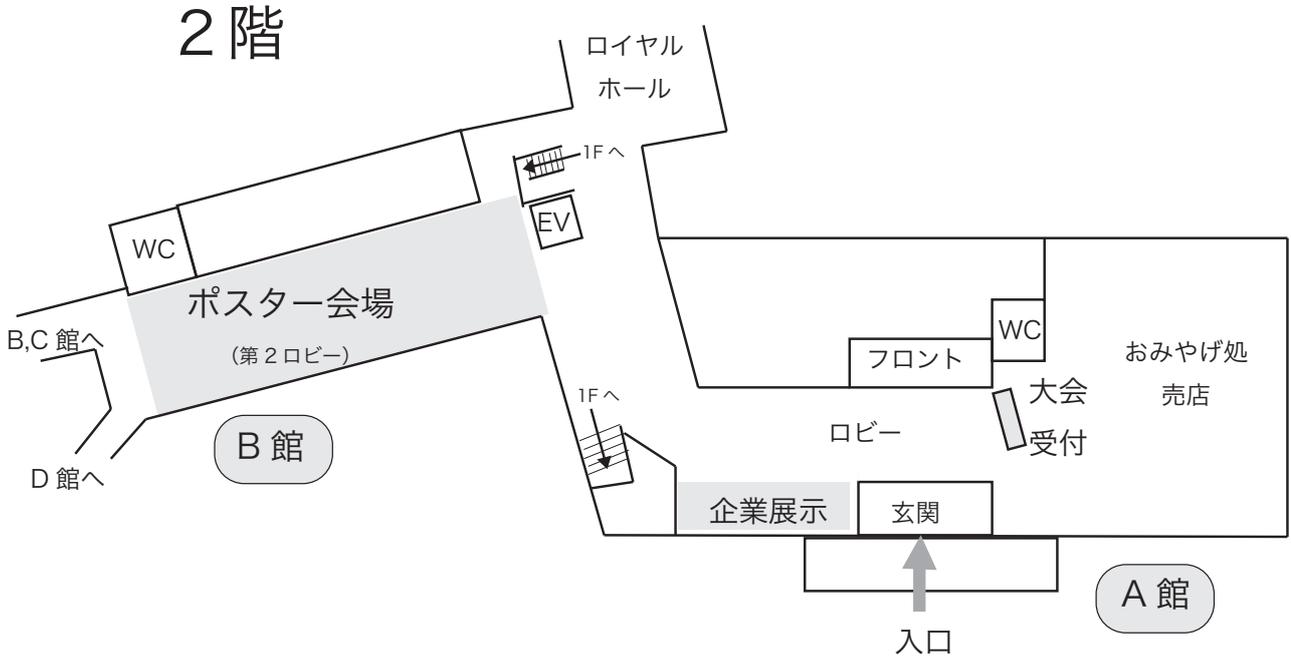
駒ヶ岳グランドホテル

JR田沢湖駅よりバス20-25分

上高原温泉下車

バスの時刻表は大会HPでご案内
します。

【会場案内図】



【 発 表 者 の 方 へ 】

(1) 口頭発表

1. 一般講演での口頭発表時間は、発表 12 分、質疑応答 3 分の合計 15 分です。
2. 口頭発表では、液晶プロジェクターをご利用いただきます。液晶プロジェクターは、Microsoft PowerPoint 2007 または 2010 および Adobe Acrobat Reader を備えた Windows パソコンに接続します。演者は PowerPoint のファイルもしくは PDF ファイルを講演者名を明記した USB メモリーまたは CD-R に保存してお持ち下さい。ファイルは事前に各会場受付でお預かりすることになります。Macintosh 等をご使用の方で PowerPoint を利用される場合は、Windows 版 Microsoft PowerPoint 2007 または 2010 で予め動作確認したファイルをお持ち下さい。
3. 容量が極端に大きい PowerPoint ファイルは、表示に時間がかかるなど、不具合の原因となりますので、ファイル容量は必ず 10MB 未満にしてください。
4. 一般講演の講演者は、講演者名を明記した発表のファイルの入った USB メモリーまたは CD-R を、各セッション開始 30 分前に各講演会場受付にお渡し下さい。

(2) ポスター発表

1. ポスターの大きさは A0 を原則とします。パネルの大きさは、縦 1800mm×横 900mm です。ポスターは、ポスターセッション開始 30 分前にプログラムに記したポスター番号のパネルに掲示し、セッション終了後 30 分以内に撤去して下さい。ポスター・パネルには必ず画鋲または虫ピンでポスターを貼って下さい。

(3) 課題講演

1. 課題講演の講演者は、事前に、もしくはセッション開始 30 分前に会場にて発表ファイルをコンビンナーにお渡し下さい。
2. 発表時間等、発表にあたっては、コンビンナーの指示に従って下さい。

- プログラム -

1日目 9月28日(木)

10:00-12:00 拡大幹事会 (会議室2)
13:00-14:30 和文誌委員会 (会議室2), 英文誌委員会 (会議室3), 企画委員会 (会議室1)
一般受け付け
14:00 ~

A会場	B会場
課題講演：森里海の連携	一般公演
15:00 森里海の連環研究に関するレビューと課題の抽出 1A01 大西健夫 (岐阜大)	15:00 琵琶湖北湖水中リン酸イオンの動態 1B01 山本麻由佳・宮下治希・石丸真菜・*丸尾雅啓 (滋賀県大)・小畑元 (東大)
15:15 技術者が扱う森・川・海(湖)のつながり修復 1A02 井上祥一郎 (名邦テクノ・エステム・アーステクノ・日吉)	15:15 琵琶湖北湖深水層における低酸素水塊の移動について 1B02 焦春萌・早川和秀・石川可奈子 (琵琶湖研セ)
15:30 水文条件の変化が森林の土地利用からの栄養塩輸送に及ぼす影響 1A03 井手淳一郎 (九州大)・武田育郎・宗村広昭 (島根大)・森也寸志 (岡山大)・作野裕司 (広島大)・米康充・高橋絵里奈 (島根大)	15:30 安定同位体比を用いた水田生物群集の栄養ポジションの推定 1B03 安野翔 (仙台市)・金谷弦 (国環研)・菊地永祐 (宮教大)
15:45 森と海のつながりにおける鉄と有機物の動態 1A04 藤井学 (東工大)	15:45 谷津干潟におけるグリーンタイドと微生物活性 1B04 千賀有希子・北村友佳・王川香澄・柴木叶・小林涉・佐藤翼・成岡知佳 (東邦大)・北沢俊幸・李盛源・白木洋平 (立正大)
16:15 水系網における陸上有機物の代謝と沿岸域への輸送 1A05 岩田智也 (山梨大)	16:00 メタロゲニウム粒子生成と植物プランクトンの関係性 1B05 古田世子・中村光穂・池田将平・山本春樹・一瀬諭 (琵琶湖研セ)・宮田直幸 (秋田県大)
16:30 極東ロシアにおける永久凍土の季節的変動が鉄の挙動に与える影響：土壌間隙水及び河川の溶存鉄濃度7月-10月観測結果 1A06 田代悠人・楊宗興 (東京農工大)・白岩孝之 (北海道大)・大西健夫 (岐阜大)・Vladimir I Kim・Vladimir P. Shesterkin (ロシア科学院マカシキン研究所)・クハラ隆 (北海道大)	16:15 琵琶湖におけるミクラステリアスの大量発生について 1B06 一瀬諭・池田将平・中村光穂・岡本高弘・七里将一・古田世子 (琵琶湖研セ)
16:45 干潟におけるきわめて高いリン酸濃度：何が生じているのか? 1A07 中野正隆・*楊宗興 (東京農工大)・野原精一 (国環研)	16:30 諏訪湖における貧栄養化に伴う植物プランクトンの変遷 1B07 二木功子・宮原裕一・花里孝幸・朴虎東 (信州大)
17:00 River Metabolism along the Latitudinal Gradients across Japan 1A08 Gurung Anandeeta・Jotaro Urabe・Tomoya Iwata and Nakano Daisuke	16:45 浅い湖におけるハス群落の拡大に伴う魚類の餌資源の変化 1B08 鹿野秀一 (東北大)・安野翔 (仙台市)・藤本泰文・嶋田哲郎 (伊豆沼・内沼環境保全財団)
	17:00 北海道渡島大沼の湖底堆積物における植物プランクトン休眠期細胞の密度変動 1B09 今井一郎・小林淳希・宮下洋平・大洞裕貴 (北海道大)・田中邦明 (北教大)
	17:15 河川の氾濫原水域における沈水植物群落の遷移過程の解明 1B10 片桐浩司 (秋田中央高)

夕食 17:30-20:00			自由集会: ライトニングトーク
評議員会 20:00 ~ 23:00 (A会場)	自由集会: 環境DNA 20:00 ~ (B会場)	自由集会: 陸水物理研究会 20:00 ~ (第2会議室)	E会 20:00 ~ (第1会議室)

2日目 9月29日(金)

A会場		B会場	
課題講演：火山と陸水		一般講演（優秀講演審査有）	
9:00	火山と陸水—火山による定常・非定常の攪乱と陸水環境（趣旨説明） 2A01 野崎健太郎（福山女学園大）・田代喬（名古屋大）・小野田幸生（土木研究所）・松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）・谷口智雅（三重大）	9:00	銅育水中の浮遊DNAを用いたトンボ目幼虫の分子同定手法の開発 2B01 東川航・櫻井智之（神戸大）・吉村真由美（森林総研）・前藤薫（神戸大）
9:15	御嶽山周辺河川の微量元素の存在状態 2A02 宇佐見亜希子（愛知工業大）・登めぐみ（公益財団法人三重県建設技術センター）・松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）・岩月栄治（愛知工業大）・八木明彦（愛知工業大）	9:15	Are life history traits related with genetic distance: an experimental test with <i>Daphnia pulex</i> 2B02 Xiaofei Tian・Hajime Otsuki・Jotaro Urabe（Tohoku Univ）
9:30	御嶽山噴火後の周辺河川の水質変遷 2A03 松本嘉孝（豊田工業高等専門学校）・田代喬（名古屋大）・野崎健太郎（福山女学園大）	9:30	雄物川本流における絶滅危惧種ゼニタナゴの再発見と繁殖地特定 2B03 坂田雅之（神戸大）・真木伸隆（パシフィックコンサルタンツ（株））・杉山秀樹（秋田県大）・源利文（神戸大）
9:45	火山性酸性河川における付着藻群落の光合成活性 2A04 野崎健太郎（福山女学園大）・田代喬（名古屋大）	9:45	Phenology of zooplankton: Relative importance of temporal scales in the variation 2B04 Perera,Ishara Uhanie・Urabe,Jotaro・Makino,Wataru・Maruoka,Natsumi（東西北大）
10:00	山体崩壊による大規模攪乱と渓流魚：避難場所としての支流の重要性 2A05 小野田幸生・萱場祐一（土木研究所）	10:00	BAC-FISH法を用いたヒゲナガカワトビケラとチョウ目昆虫の性染色体比較 2B05 藤本章晃（岩大）・木村友祐（岩大）・安河内祐二（農研機構）・鈴木剛（大教大）・佐原健（岩大）
10:15	火山周辺地域における災害リスク，供給サービスとその水環境への影響 2A06 田代喬（名古屋大）	10:15	<i>Aulacoseira</i> 属珪藻寄生性ツボカビの系統的位および宿主特異性 2B06 瀬戸康介・鏡味麻衣子（東邦大）・出川洋介（筑波大）
課題講演：放射性物質		10:45 韓国の四大河川におけるアオコ毒素microcystinの現状 2B07 全逢錫・韓智仙・朴虎東（信州大）	
10:45	福島河川水中の溶存態 ¹³⁷ Csと ³ H濃度の長期変動 2A07 植田真司・長谷川英尚・柿内秀樹・佐藤雄飛・大塚良仁・久松俊一（環境研）	11:00	諏訪湖における水草ヒシ <i>Trapa japonica</i> の含有ポリフェノールの溶藻活性と季節変動 2B08 土屋俊雄・朴虎東・船山啓・丸山あい（信州大）
11:00	山岳湖沼における放射性セシウムの挙動 2A08 野原精一（国環研）・横塚哲也・阿久津正浩・小堀功男（栃木大）	11:15	アオコ原因種 <i>Microcystis aeruginosa</i> に対する殺藻細菌の殺藻機構におけるクオラムセンシング関与の可能性 2B09 大洞裕貴・宮下洋平・小林淳希・小峯佳奈子・藤田雅紀・酒井隆一（北海道大）・織田さやか・田中邦明（北教大）・今井一郎（北海道大）
11:15	福島第一原発（FDNPP）事故による放射性セシウム放出の課題 2A09 吉村真由美・赤間亮夫（森林総研）	11:30	函館市五稜郭外堀における水草群落と植物プランクトン群集の拮抗関係 2B10 宮下洋平・大洞裕貴・小林淳希（北海道大）・織田さやか・岩塚咲・嶋津桃華・田中邦明（北教大）・今井一郎（北海道大）
11:30	栃木県中禅寺湖における魚類の放射性物質汚染の現状と課題 2A10 横塚哲也・阿久津正浩・小堀功男（栃木水試）・野原精一（国環研）	11:45	長野県深見池における長期環境変動と枝角類群集の形成過程：年縞堆積物による長期動態の解明 2B11 大竹裕里恵（東大）・大槻朝・占部城太郎（東西北大）・木村成子（滋賀県大）・山田和芳（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・吉田丈人（東大）
11:45	魚による放射性セシウムの蓄積 2A11 石井 伸昌（放医研）	12:15-13:15 ランチョンセミナー（A会場）	
課題講演：流域ガバナンス		一般講演（優秀講演審査有）	
13:30	趣旨説明 2A12 奥田昇（地球研）	13:30	福井県三方湖におけるヒシ分布の時空間動態と塩分濃度の関係 2B12 石川みくり（東大）・石井潤（福井県里山里海湖研究所）・西廣淳（東邦大）・瀧本岳・宇野文貴・吉田丈人（東大）
13:45	琵琶湖流域の順応的ガバナンス：流域圏社会-生態システムの健全性 2A13 奥田昇・池谷透・石田卓也・上原佳敏（地球研）・浅野悟史（琵琶湖研セ）・岩田智也（山梨大）・大園亨司（同志社大）・陀安一郎（地球研）・伴修平（滋賀県大）・谷内重雄（京大）・脇田健一（龍谷大）	13:45	分子マーカーを用いた止水棲昆虫のワンド利用およびワンドの接続性—河川生態系における河川ワンド・たまりの機能評価— 2B13 竹中將起・富田 和宏・谷野宏樹・東城 幸治（信州大）

14:00	「地域の環境ものさし」は地域の生物多様性の指標になるか？—滋賀県甲賀市小佐治地区のニホンアカガエルの卵塊数との比較から 浅野悟史（琵琶研セ）・上原佳敏・石田卓也・池谷透・奥田昇（地球研）	2A14
14:15	田越灌漑によって水田の栄養塩循環はどう変わるか？水田からの栄養塩流出抑制を目指して 石田卓也・上原佳敏・池谷透（地球研）・浅野悟史（琵琶研セ）・奥田昇（地球研）	2A15
14:30	ピマラス湖上・産卵環境再生の取組：多主体協働による魚道設置と産卵床造成 佐藤祐一（琵琶研セ）・中野良博・西村拓巳（野洲市）・幡野真隆（滋賀県）・北出肇（NPO家棟川流域観光船）	2A16
14:45	琵琶湖と内湖の繋がりに耳石Sr安定同位体比を用いたニゴロブナの回遊履歴推定の試み 上原佳敏（地球研）・中川隼人・小北智之（福井県大）奥田昇（地球研）	2A17
15:00	琵琶湖及び周辺内湖における環境DNA分析手法の適用例 郎情情・河野健（神戸大）・上原佳敏・奥田昇（地球研）・辻冨月・山中裕樹（龍谷大）・源利文（神戸大）	2A18
15:15	中規模内湖の水質保全にむけたとりくみ —平湖・柳平湖の導水管理をめぐる課題を検討する— 池谷透（地球研）・易容・伴修平（滋賀県大）・石田卓也・上原佳敏（地球研）・大久保卓也（滋賀県大）・脇田健一（龍谷大）・谷内茂雄（京大）・奥田昇（地球研）	2A19
15:30	What is difference between orthophosphate and SRP in lake waters? 易容・宋培学・丸尾 雅啓・伴修平（滋賀県大）・石田卓也・奥田昇（地球研）	2A20
15:45	国の天然記念物・深泥池（みぞろがいがけ）の生態系管理を目指した市民活動 北尾晃一（京大）・加藤義和（地球研）・成田研一（深泥池自然観察会）・木村満（深泥池を美しくする会）・竹門康弘（京大）	2A21
16:00	福井県三方五湖における自然再生：多様な主体の協働 吉田丈人（東大）	2A22
16:15	秋田県八郎湖のアオコ発生メカニズムと住民参加型調査 岡野 邦宏・荒木 美穂（秋田県大）・松尾 歩（東西北大）・藤林 恵・宮田 直幸（秋田県大）	2A23
16:30	八郎湖流域の水質および元素循環の特徴と流域ガバナンス 早川敦（秋田県大）・片野登（元、秋田県大）・石川祐一（秋田県大）・日高伸（土壌協会）・高橋正（秋田県大）	2A24
16:45	流域住民への意識調査から示唆される自然認識の空間スケール—流域ガバナンスにどう活かすか— 長坂晶子（道総研林試）	2A25
17:00	総合討論（20-30分） 参加者全員	2A26

14:00	光：栄養塩バランスと生態転送効率—プランクトンを用いた野外操作実験 風間健宏・平間文也（東北大）・Tyler Tappenback（モンタナ州立大）・土居秀幸（兵庫県大）・片野泉（奈良女子大）・吉田丈人（東大）・山道真人（京大）・James Elser（モンタナ州立大）・占部城太郎（東北大）	2B14
14:15	細菌生産速度から見る霞ヶ浦湖心の物質収支 土屋健司・佐野友春・富岡典子・高村典子・中川恵・高津文人・小松一弘・今井章雄（国環研）	2B15
14:30	御嶽山噴火（140927）前後の水環境の研究 浅見和希・小寺浩二（法政大）	2B16
14:45	秋田県六郷扇状地の湧水の流量変化と水質にみられる関係 溝口宏和（秋田大）・網田和宏（秋田大）	2B17
15:00	霞ヶ浦高浜入りにおける水変り現象とそれによる水質変動について 中川圭太（茨環環科セ）・小日向寿夫（茨漁政）・神谷航一（茨環対）・大内孝雄（茨環対）・吉尾卓宏（茨環研）・菅谷和寿（茨環流下事）・相崎守弘（前茨環環科セ）	2B18
15:30	水生昆虫成虫の陸域への分散におよぼすダムおよびダム湖の影響 松岡真梨奈（奈良女子大）・水守裕一（兵庫県大）・布野隆之（兵庫県立人と自然の博物館）・一柳英隆（九州大）・土居秀幸（兵庫県大）・片野泉（奈良女子大）	2B19
15:45	小規模ダム河川の底生動物群集がダム・堰堤・支川流入から受ける影響 水守裕一（兵庫県大）・松岡真梨奈（奈良女子大）・相馬理央（兵庫県大）・一柳英隆（九州大）・土居秀幸（兵庫県大）・片野泉（奈良女子大）	2B20
16:00	諏訪湖における植物プランクトンへの栄養塩組成の影響 横内雅大・宮原裕一（信州大）	2B21
16:15	釧路市春採湖におけるウチダザリガニの食性解析 河野明斗・照井滋晴（NPO・PEG）・對馬孝治（日大）	2B22
16:30	千苅貯水池における内部振動が取水域に及ぼす影響 常村将太・藤井智康（奈良教育大）・藤原建紀（京都大・名誉教授）・中山恵介（神戸大）・清水武俊・中島祐輔・大藪智久・伊藤博之（神戸市水道局）	2B23
16:45	Determination of dissolved thiols in Lake Biwa water and extracted fulvic acid by HPLC-fluorescence detection with SPE Md. Rasheduzzaman・川口舞・丸尾雅啓（滋賀県大）	2B24
17:00	熱分解GC/MSを用いた琵琶湖北湖底質中化学成分の動態解析 村山耀平・初雪・布施泰朗（京工繊大）・岡本高弘・早川和秀（琵琶研セ）・柄谷肇・山田悦（京工繊大）	2B25
17:15	多環芳香族炭化水素など化学指標を用いた琵琶湖北湖における粒子状物質の動態解析 初雪・村山耀平・水口裕尊・布施泰朗（京工繊大）・早川和秀（琵琶研セ）・柄谷肇・山田悦（京工繊大）	2B26

Special Session: Internationalizing Limnology II		
17:45	Unknown protists with high grazing characterize the microbial eukaryotic community in Lake Biwa Indranil Mukherjee・Yoshikuni Hodoki・Yusuke Okazaki・Shin-ichi Nakano（Center for Ecological Research, Kyoto University）	2B27
18:00	DO PLANTS' STRESS PARAMETERS REVEAL THE COMMUNITY STRUCTURE OF RIPARIAN VEGETATION? *Lekkala Vamsi Krishna *Takashi Asaeda *Bhagya Nallaperuma（Saitama University）	2B28
18:15	MODELLING RIPARIAN VEGETATION DISPOSITION CONJOINING HYDROMORPHOLOGICAL AND ECOLOGICAL PROCESSES: A CASE STUDY AT A PLAGUED SITE *Bhagya Nallaperuma *Takashi Asaeda *Lekkala Vamsi Krishna（Saitama University）	2B29

夕食 18:30-19:30
ポスターセッション(優秀賞審査対象) 19:30 ~ 21:30
E会 21:30~ (第1会議室)

3日目 9月30日(土)

総会・各種表彰式
(B会場)

9:00~12:00

ポスターセッション

13:00~15:00

A会場		B会場	
一般講演		一般講演	
15:00	奥能登丘陵・宝達丘陵・両白山地の東西溪流群の水質分布 3A01 海老瀬潜一(元、摂南大)・川村裕紀(キョーワ(株))・永淵修(福岡工大)	15:00	北日本における止水性ヒメシロカゲロウ属(カゲロウ目: ヒメシロカゲロウ科)の遺伝的多様性 3B01 林宏至朗・兼子伸吾・塘忠顕(福島大)
15:15	阿蘇火山の火口湖「湯だまり」の水同位体組成 3A02 大沢信二(京大)・齋藤武士(信州大)・網田和宏(秋田大)	15:15	ため池のユスリカ多様性4類型の指標としての理解 3B02 高村健二・上野隆平・今藤夏子(国環研)・大林夏湖(東大)
15:30	長期連続観測が示す南極湖沼の水温変動と循環特性: Cold monomictic lakes 3A03 工藤栄(極地研)	15:30	止水棲昆虫類におけるファインスケールでの移動分散について 3B03 富田和宏・*東城幸治(信州大)
15:45	浅層地下水地域における地下水位変動と自然電位分布の関係 3A04 田中宏尚・網田和宏(秋田大)	15:45	酸性河川渋黒川において優占する捕食者レゼイナガレトビケラと被食者ユビオナシカワゲラ属の増減関係の季節的变化(予報) 3B04 青谷晃吉(大崎市教育委員会)
16:00	泥炭地の形成と維持に及ぼす地形・水文要因, とくに尾瀬を例にして 3A05 岩熊敏夫(北海道大)・野原精一(国環研)	16:00	地理的単為生殖昆虫オオシロカゲロウの両性生殖系統と単為生殖系統の流程分布 3B05 関根一希(立正大)・東城幸治(信州大)
16:15	今半世紀における陸水流入による陸水生態系変遷の研究特色と課題 3A06 坂本充(名古屋大、滋賀県大)	16:15	環境DNAによる河川・湿地での希少種の探索: ハコネサンショウウオとヒメタイコウチを例に 3B06 片野泉・原田憲・酒多勇輔・相馬理央・土居秀幸(兵庫県大)
16:30	2013年に発生した台風18号の通過後に再形成された琵琶湖環流の数値シミュレーション 3A07 AUGER, Guillaume (IBM Research)・*WELLS, John C. (立命館大学)	16:30	核DNAマーカーを用いた環境DNA分析 3B07 内井喜美子(大阪大谷大)・土居秀幸(兵庫県大)・山中裕樹(龍谷大)・源利文(神戸大)
16:45	鳥取県東郷池の成層構造 3A08 大久保賢治・齋藤光代(岡山山)	16:45	珪藻寄生性菌類がバクテリア群集構造およびDOM組成に与える影響 3B08 鏡味麻衣子・千賀有希子(東邦大)・Jason Woodhouse (IGB-Berlin)・Christian Wurzbacher (Gothenburg Univ.)・Hans-Peter Grossart (IGB-Berlin)
17:00	岡山県鹿久居島の海底湧水について 3A09 大久保賢治・齋藤光代・川下勝也・土居鯨太(岡山山)	17:00	高密度化された津久井湖・相模湖ラン藻におけるVOC産生と青色化を伴う溶藻現象 3B09 山下竜司・有井鈴江(名城大)、辻 清美(神奈川衛研)、富田浩嗣(愛知衛研)、*原田健一(名城大)
17:15	十和田湖の流入河川が湖水の水質に与える影響について 3A10 網田和宏・鷹巣真(秋田大)・田中輝(青森県・三沢市)	17:15	Microcystin分解性細菌B-9株における新たな加水分解酵素MlrEおよびアミノ酸輸送担体 3B10 金海燕・平柳里奈・川島湖都美・Andrea R.J. ANAS(名城大)・辻清美(神奈川衛研)・*原田健一(名城大)
17:30	亜寒帯域における深湖の熱環境と永年不凍化へのシナリオ 3A11 知北和久(北海道大)・大八木英夫(日大)・相山忠男(福田水文セ)・板谷利久(新技術コンサル)・岡田操(水工リサーチ)・坂元秀行(ヒグマ博物館)		

懇親会

18:30 ~ 21:00

ポスターセッション

2日目 9月29日(金) 19:30~21:30

3日目 9月30日(土) 13:00~15:00

ポスター (審査有)	
ミジンコの適応度に及ぼす腸内細菌	2P01
張 璇・占部城太郎・牧野渡・大槻朝 (東北大)	
木葉・ミジンコ：湖沼二次生産に対する外来性有機物の影響	2P02
平間文也・風間健宏・野口拓水(東北大)・山道真人(京大)・片野泉(奈良女子大・生物)・土井秀幸(兵庫県立大)・吉田丈人(東大)・Tyler Tappenbeck・Jim Elser.(Montana Univ.)・占部城太郎(東北大)	
Seasonal variation of fungal community, especially zoospore fungi, in Lake Biwa based on LSU region of rDNA	2P03
宋培学・伴修平・田辺祥子・易容 (滋慶大)	
造網型トビケラと環境要因との関係について	2P04
中村虎之介 (広島大)	
琵琶湖深底部における次世代シーケンサーを用いた底生生物消化管内容物の解析	2P05
三田村学歩・岩本興治・細井祥子(滋賀県大)・石川可奈子(琵琶湖研セ)	
ヒメドロムシ科幼虫群集の組成と水質との関わりについて	2P06
三谷岳・河合幸一郎 (広島大)	
Evolution of Malwain Cichlids in Lake malawi	2P07
Hashem Shaharior, Kawai Koichiro (Hiroshima University, Graduate School of Biosphere Science)	
環境DNA技術におけるPCR阻害要因の検討：ため池の水とゼブラフィッシュを用いた飼育実験	2P08
相馬理央(兵庫県大)・山中裕樹(龍谷大)・土居秀幸(兵庫県大)・片野泉(奈良女子大)	
トゲマダラカゲロウ属数種における幼虫の体色斑に関連した遺伝的分化	2P09
田村繁明・加賀谷隆(東大)・加賀谷悦子(森林総研)	
琵琶湖湖底堆積物におけるカイアシ類Eodiaptomus japonicus休眠卵の現存量・孵化率および発育可能性	2P10
刘鑫・Delphine Beyrend・伴修平(滋賀県大)・Gaël Dur(静岡大)・牧野渡・占部城太郎(東北大)	
水生昆虫を主としたオオサンショウウオ幼生の食性について	2P11
児玉敦也・中村虎之介・神林千晶(広島大)・清水則雄(広島大学総合博物館)・河合幸一郎(広島大)	
兵庫県中播磨地域のため池におけるトブガイの分布制限要因	2P12
東垣大祐・覚田青空・相馬理央・土居秀幸(兵庫県大)・片野泉(奈良女子大)	
アカミミガメを対象とした目視調査と環境DNA調査の精度比較：ため池への外来種侵入予測ポテンシャルマップ構築に向けて	2P13
覚田青空・東垣大祐・相馬理央(兵庫県大)・源利文(神戸大)・土居秀幸(兵庫県大)・片野泉(奈良女子大)	
日本における <i>D. pulex</i> のクローン分布を決める要因：種内競争能力からの考察	2P14
丸岡奈津美・占部城太郎(東北大)	
長野県深見池の年縞堆積物における微生物群集構造解析	2P15
木村成子(滋賀県大)・大前公保・吉田天士・左子彦彦(京大)・大竹裕里恵(東大)・大槻朝・占部城太郎(東北大)・山田和芳(ふじのくに地球環境史ミュージアム)・吉田丈人(東大)	

ポスター	
水生菌類を用いたハイスループット培養試験法の検討	3P01
永井孝志(農研機構・農環研)	
水草の刈取り・除去による生物群集への影響評価	3P02
石川可奈子・井上栄壮(琵琶湖研セ)・芳賀裕樹(琵琶湖研)・伴修平(滋賀県大)	
環境DNAによる淡水エビ分布調査を目的とした在来種-外来種群判別 Multiplex PCR法の確立	3P03
石黒直哉・石田季久・飯島大智(城西大)	
鳥屋野潟の動物プランクトン相	3P04
帆苅信(新潟河川生態研究グループ)	
河川の健全度指標におけるウグイの利用価値について	3P05
西家大輔(広島大)	
Daphniaにおける真菌類の餌料価値	3P06
豊田真樹・牧野渡・占部城太郎(東北大)	
ダム建設予定地下流の河川における糸状藻類と流速の関係	3P07
相子伸之・山本義彦・近藤美麻・小田優花・山口翔吾・内藤馨(大阪環農水研)	
霞ヶ浦底泥からのMicrocystis rDNAの抽出と定量	3P08
長濱祐美(茨城県科セ)・富岡典子(国環研)・松本俊一・福島武彦(茨城県科セ)	
福島湖(新潟県)の陸水生物相 1. 水質と微小生物	3P09
帆苅信(新潟河川生態研究グループ)・佐久間昌孝・伊藤章・安部信之・富樫繁春	
微量セシウム蛍光検出プローブを用いたトビケラの流下物取り込みに関する試み	3P10
佐藤翔(埼玉大)・藤野毅	
琵琶湖北湖における微生物群集の季節変化	3P11
富岡典子・土屋健司・小松一弘・高津文人・今井章雄(国環研)・早川和秀・廣瀬佳則・岡本高弘・永田貴丸(琵琶湖研セ)	
水生昆虫の生息可能温度：北米のデータベースを用いた解析	3P12
土居秀幸(兵庫県大)・John S. Kominoski (Florida International University)・片野泉(奈良女子大)	
深見池のC,N,Pの特異性と長期変動	3P13
八木明彦(愛知工業大学)・大八木麻希(四日市大学)・登めぐみ(三重県建設技術センター)・寺野ひろ実(ニッKK)・宇佐見亜希子(Kkウォーターエージェンシー)	
白神山地山麓十二湖青池の呈色機構に関する研究	3P14
花石竜治・野澤直史・佐藤裕久(青森県環境保健センター)・工藤志保(青森県中南部地域県民局環境管理部)	
湖底環境シミュレーション実験による湖水-底質間における化学成分の動態評価	3P15
布施泰朗・初雪・村山耀平(京工織大)・岡本高弘・早川和秀(琵琶湖研セ)・柄谷肇・山田悦(京工織大)	

Application of DNA barcoding for identification of rotifer gut contents	2P16	生物	琵琶湖における湖水中と湖底堆積物中の窒素循環過程の関連性	3P16	生物以外
Oh Hye-Ji (Kyunghee Univ.) · Jo Hyun-Bin (Pusan National University) · Chang Kwang-hyeon (Kyunghee Univ.) · Joo Gea-jae (Pusan National University)			尾坂兼一・土橋直哉・鈴木悠平・山田沙希・丸尾雅啓(滋賀県大)・中村高志・西田継(山梨大)		
日本産陸生シアノバクテリア <i>Nostoc commune</i> の毒素生産の有無とその他の二次代謝産物の探索	2P17	生物	琵琶湖水における有機物の生分解性について	3P17	生物以外
黒澤航軌・朴虎東・全逢錫(信州大)			早川和秀・廣瀬佳則・岡本高弘・佐藤祐一・永田貴丸(琵琶湖研セ)・後藤直成(滋賀県大)・中野伸一(京大)・富岡典子・今井章雄(国環研)		
ミジンコの成長に及ぼす自生性と外来性有機物の栄養評価	2P18	生物	Current situation and problems of Inle lake water management in Myanmar	3P18	生物以外
野口拓水・風間健宏・平間文也(東北大)・Tyler Tappenback(モンタナ州立大・FLBS)・土居秀幸(兵庫県大)・片野泉(奈良女子大)・吉田丈人(東大)・山道真人(京大)・James Elser(モンタナ州立大・FLBS)・占部城太郎(東北大)			Htet Htet Moe(埼玉大)・Yint Wai Phyo・Takeshi Fujino		
Seasonal variations of autotrophic picoplankton abundance in Lake Biwa, with special reference to their grazers	2P19	生物	塩基性化する淀川水系河川水に関する研究	3P19	生物以外
蔡吉(京大)			中口謙・辻直樹・下方康汰(近畿大)		
昆虫食が貢献する食料生産：水域からの漁獲資源減少を考慮して	2P20	生物	猪苗代湖における底層DOの変動	3P20	生物以外
Randy Nathaniel Mulia・土居秀幸(兵庫県大)			大沼紗織・佐藤貴之(福島県環境創造センター)		
印旛沼における <i>Microcystis aeruginosa</i> の遺伝的多様性と分布パターン	2P21	生物	衛星リモートセンシングによる琵琶湖におけるクロロフィルa濃度分布の解析	3P21	生物以外
岡崎一真(東邦大)・田辺雄彦(筑波大)・鏡味麻衣子(東邦大)			後藤直成・新井那莉・塚本浩貴(滋賀県大)・林正能(株)サイエンスアンドテクノロジー・石坂丞二(名古屋大)		
メタバーコーディングが明らかにする河川水中の菌類相とその空間構造	2P22	生物	乾式メタン発酵残渣を施用したハス田における窒素挙動	3P22	生物以外
松岡俊将(兵庫県大)・佐藤博俊(龍谷大)・原田憲(兵庫県大)・片野泉(奈良女子大)・土居秀幸(兵庫県大)			利谷翔平・那須啓亮・島村誠人・寺田昭彦・細見正明(東京農工大)		
琵琶湖のプランクトンを環境DNAから探る！	2P23	生物	隔離水界を用いたウナギの水生態系と水質への影響	3P23	生物以外
永野真理子(兵庫県大)・牧野渡(東北大)・土居秀幸・松岡俊将(兵庫県大)			河鎮龍(信州大)・坂本正樹(富山県大)・小林宏輝・花里孝幸・朴虎東(信州大)		
諏訪湖における植物プランクトンへの栄養塩組成の影響	2P24	生物以外	千曲川中流域における一次生産の推定	3P24	生物以外
横内雅大・宮原裕一(信州大)			宮原裕一・平林公男(信州大)・傳田正利(土木研)		
Pseudopolarographyを用いた琵琶湖水中溶存有機配位子の分離及び銅錯化容量の測定	2P25	生物以外	中禪寺湖における放射性セシウムの挙動	3P25	生物以外
湯川孝紀(岡山理科大)・森本喬也(神戸大)・丸尾雅啓(滋賀県大)・早川和秀(琵琶湖研セ)・小畑元(東大)・杉山裕子(岡山理科大)			野原精一(国環研)・横塚哲也・小堀功男(栃木県水産試験場)		
岡山城内堀に溶存する蛍光性有機物のPARAFAC解析-ヒシ成育の有無が成分スペクトルに与える影響	2P26	生物以外	ダム湖がもたらす弊害解消策；佐久間ダムについての提案	3P26	生物以外
浦川泰弘・土居愛美・重松直樹・福田史紗・澤近美咲・齋藤達昭・杉山裕子(岡山理科大学)			戸田三津夫(静岡大)		
高等植物におけるアオコ抑制物質の探索	2P27	生物以外	水温制御による水草繁茂の抑制実験について(予備研究)	3P27	生物以外
王居婷・朴虎東・牧田直樹(信州大)			植本佳樹(株式会社新洲)・熊谷道夫・青田容明(立命館大)		
湖底堆積中のアオコ毒microcystin定量方法の確立	2P28	生物以外			
出口博之・全逢錫・朴虎東(信州大)					
汽水湖穴道湖湖心の硫化水素の挙動	2P29	生物以外			
野里久幸・菅原庄吾・江川美千子(島根大)					
テドラーバッグを用いる硫酸還元反応の半飽和定数の決定	2P30	生物以外			
菅原庄吾(島根大)・神谷宏(島根県保環研)・馬場達也・江川美千子・清家泰(島根大)					
琵琶湖北湖水中に含まれるマンガンの形態別分析とその挙動	2P31	生物以外			
浅岡昂志・丸尾雅啓(滋賀県大)					
腐植栄養湖赤沼における水系腐植物質動態に微生物が与える影響	2P32	生物以外			
成岡知佳・千賀有希子(東邦大)					

谷津干潟堆積物における脱窒とアナモックスの集積培養	2P33	生物以外
佐藤翼（東邦大）・諏訪裕一・黒岩恵（中央大）・千賀有希子（東邦大）		
遺伝子発現解析と微小電極による水田の亜酸化窒素生成反応の推定	2P34	生物以外
利谷翔平・竹内裕貴・寺田昭彦・細見正明（東京農工大）		
浅い富栄養化湖沼におけるアオコの日周鉛直移動と栄養塩動態について	2P35	生物以外
菅原巧太郎・藤林恵（秋田県大）・遠田幸生（秋田県産業技術センター）・荒木美穂・岡野邦宏・宮田直幸（秋田県大）		
New Index of Organic Pollution for Brackish Lake Using BOD and COD-Cr	2P36	生物以外
戸田三津夫・*Adelia Anju Asmara・加藤幹也（静岡大）		
高濃度酸素水供給装置の自動運転による布部ダム深水層の窒素浄化に関する研究	2P37	生物以外
引野愛子・増木新吾・菅原庄吾・江川美千子・清家泰（島根大）		
活火山地域における水環境の比較	2P38	生物以外
浅見和希・小寺浩二・猪狩彬寛・堀内雅生・山崎康熙・諸星幸子（法政大）		
赤城山に存在する一時湖沼の出現と消失プロセス	2P39	生物以外
船生泰寛（立正大）		

【 課 題 講 演 】

陸水を介した森・川・海のつながり

コンビナー:大西健夫(岐阜大学)・岩田智也(山梨大学)

9月28日(木) A会場 15:00-17:15

陸域における人間活動は陸水を介して上流域から下流域に影響が波及するため、流域的視点が不可欠である。流域の「統合的水資源管理」や「森里海連関学」、「LOICZ (Land and Ocean Interaction at Coastal Zone)」など、陸域と海洋の一体的な水系管理の重要性は従来から認識はされていたものの、未だ概念論にとどまっており、政策決定の場でも広く利用可能な形に実体化していくためには、流域の変化を包括的に評価すること、そして、その変化が沿岸域と海洋へ及ぼす影響を科学的に評価する必要がある。しかし、従来の研究では個別プロセスの研究が主体であったため、流域全体をひとつのシステムとして捉える方法論、視点、課題自体が明確にされていない。そこで本課題講演では、上流域から森林、農地、都市、湖沼、湿地、沿岸域と多様な土地利用・土地被覆を経由しながら、河川や湖沼を形成し、海洋へ到達する陸水のプロセスを包括的に取り扱うための手法、概念、課題を明らかにすることを意図して数年にわたるシリーズとして企画するものである。今年度は広く課題を明らかにすることを目的として、「森・川・海のとつながりと人間活動」との関係に着目した研究であれば、いかなる課題も歓迎である。課題の抽出を行うことに主眼をおいた課題講演としたい。

火山と陸水

コンビナー:野崎健太郎(椋山女学園大学教育学部)・田代喬(名古屋大学減災連携研究センター)

9月29日(金) A会場 9:00-10:30

火山は、その活動によって、カルデラ湖、強酸性環境、温泉など、陸水学にとって魅力的な研究対象を私たちに提供してくれます。例えば、火山性酸性湖の美しくも不思議な水色の形成過程 (Ohsawa et al. 2010: *Limnology*, 11: 207-215)、特異な生物相と物質代謝 (Doi et al. 2003: *Aquatic Microbial Ecology*, 33: 87-94)、今日でも興味深い現象が報告され続けています。一方で火山の噴火は大きな自然災害を引き起こし、御嶽山(長野県・岐阜県)の2014年噴火では、58名が犠牲者になり、火山噴出物が王滝川水系の濁りと酸性化を引き起こしたことは記憶に新しいところです(日本陸水学会東海支部会 <http://rikusui-tokai.sakura.ne.jp/356-2/>)。本課題講演は、陸水学会第82回大会が、日

本有数の火山地帯である東北地方、しかも火山性酸性河川の人為的な流入によって環境が改変された田沢湖近隣で開催されることから、火山と陸水との関係に改めて着目し、基礎科学に留まらず、防災を含んだ応用科学に至る、幅広い範囲で議論することを目的に企画しました。

陸水環境における放射性物質の挙動 – 原発事故後 6 年間を振り返って –

コンピーナー:野原精一 (国立環境研究所)・植田真司 (環境科学技術研究所)

9月29日(金) A会場 10:45-12:00

2011年3月に東京電力福島第一原子力発電所事故から放出された放射性物質は世界的規模の環境汚染を引き起こした。特に東北・関東地方には特に多く沈着し、降雨などのイベントに伴い徐々に流域内を降下している。河川水を通じた放射性セシウムの移動は、水田などの水を用いた農作物への影響、山林などからの放射性セシウムの拡散状況の把握、河川底質や河口付近への放射性セシウムの移動などの環境動態評価が重要となる。また、水中の放射性Csは主に溶存態と懸濁態で存在し、その異なる挙動が予想される。そこで、陸水環境での懸濁粒子の挙動、沈殿量の季節変化、流量観測と放射性物質の挙動、河口域に洪水時に流れ込んだ放射性物質の分布と蓄積量、水生生物相と放射性物質の蓄積量を定量的に明らかにすることが陸水学者に求められている。第79回つくば大会の課題講演に引き続き、原発事故後6年間を振り返って各地の陸水における環境放射能研究を総合的に考察し、今後地元東北の環境改善に還元して行く方法について議論する。また、関係するポスター発表も同時に投稿して頂き、合わせて総合的に議論を深める予定である。

流域ガバナンス：陸水学が果たす学術的貢献と社会的役割

コンピーナー:奥田昇 (総合地球環境学研究所)

9月29日(金) A会場 13:30-17:30

陸水学は、陸水域の物理・化学・生物プロセスを総合的に理解する学際科学として19世紀に誕生しました。さらに、近代化の中で人間活動が陸水環境に及ぼす影響が無視できないほど増大するにつれ、応用陸水学が発展してきました。近年では、研究者や行政が中心となって、陸水環境を統合的に管理する「流域管理」が実践されるようになりました。しかし、流域社会における環境問題が複雑・重層化するにつれて、行政や研究者だけで問題を解決するのが困難になってきました。流域ガバナンスとは、流域で顕在化する社会的課題や環境問題を解決するために社会の多様な主体が問題と向き合い、協働

する仕組みです。

本課題講演は、流域ガバナンスに携わる研究者の実践事例や体験談を持ち寄り、流域ガバナンスに対する理解を深め、情報共有する場を醸成することを目的とします。流域ガバナンスにおける陸水学の学術的貢献や社会的役割について闊達な議論を期待します。

Internationalizing Limnology II

Convener: Indranil Mukherjee

Convener: Indranil Mukherjee (Center for Ecological Research, Kyoto University)

9月29日 (Fri) B会場 17:45-18:30

After a successful English session in JSL 2016 (Internationalizing Limnology), we decided to continue the session to provide a platform to bring together and interact with various researchers from Japan and various countries of the world. All the researchers working in any field of limnology who wish to present in English and those who are not confident in presenting their work in Japanese are welcome to present in this session. We hope that this opportunity will help in exchanging novel ideas from the researchers working in various aspects of limnology and this will also help in initiating international collaborations.

【自由集会】

環境 DNA 調査：分析方法の解説と採水調査の実践

源利文・徐寿明（神戸大学）・土居秀幸（兵庫県立大学）

9月28日（木）B会場 20:00 -

近年発展している環境 DNA を用いた生物調査について、これから始めようとする方むけに、具体的な分析方法の解説と、調査のデモンストレーションを行う。また、若手の研究者から最新の話題について提供してもらう。

陸水物理研究会

知北和久（北海道大学）

9月28日（木）会議室2 20:00 -

同研究会は、陸水学会会員を中心として1981年に設立され、年一回、研究発表会と巡検を実施し、今年は11月に奈良で開催される。会員は、特に「水に関わる環境変動と自然災害」に関係する研究者が多い。生物系の方も大いに歓迎する。関心のある方は、どうぞ、お越し下さい。

陸水学ライトニングトーク

鏡味麻衣子（東邦大学）・高巢裕之（長崎大学）・宮下洋平（北海道大学）・土居秀幸（兵庫県立大学）・大澤剛士（農環研）

9月28日（木）会議室1 18:30 -20:00

5分間という限られた時間で、ご自身のトピックを自由に話しませんか。また、聴衆として参加していただければ、短時間で様々な分野を勉強で、多岐にわたる「陸水学」の研究を勉強できます。発表プログラムはネット上に公表します。演題は15題、1人5分、5名に発表していただいた後、5名全員への質疑応答を5分設けます。ぜひ演者として、あるいは聴衆としてご参加ください。

陸水学は、「陸水」という場を共有した学問分野で、研究内容は物理や化学、生物学など多岐にわたります。陸水学会に参加しても、特に若手の方は、自分の研究を理解してもらえないかも、他分野の研究を理解するのは難しいかも、といった不安はないでしょうか？

ライトニングトークとは、**Lightning**（稲妻、電光石火）のように、短時間でインパクトのある話をするのが基本コンセプトになっています。5分間という限られた時間で、自分の大胆なアイデアを提示したり、始めたばかりの実験デザインを紹介したり、最近出版した論文を宣伝したり、陸水学のトピックを自由に話しませんか。また、5分という短い時間なので1つ1つの発表に集中することができ、短時間で様々な分野を勉強できます。ライトニングトークは他の学会でも見られる企画で、日本生態学会では学部3年生も積極的に発表に挑戦し、発表側、聴衆の双方から大好評を博しました。面白さは保証します。ぜひ演者として、あるいは聴衆としてご参加ください。

<<5分で発表なんかまとまらないよ>> いえいえ、5分でまとめることが大事なのです。枝葉末節をそぎ落とす作業は、自分の研究の本質を見つめ直す良い機会になります。この作業は本当に伝えたいことを再認識でき、普段の口頭発表への良いトレーニングにもなります。さらに、就職や学振などの面接にも生きてくることでしょう。

<<自分の専門外の発表が5分じゃ理解できないよ>> いえいえ、演者は要点のみに中身を搾ってくるので、むしろわかりやすくなっています。興味を持った内容があったら、ぜひ懇親会等で演者を捕まえましょう。

<<何を発表すれば良いの？>> ご自由にどうぞ！最新のデータでも、最近発表された論文の宣伝でも、本大会の一般講演の宣伝でも一切お任せします。ただし、自身の研究や取り組みに関わる内容としてください。例えば他人の論文レビューや本の紹介だけではダメです。

<<発表プログラム>> 大会前にネット上で発表します。演題は15-20を予定しています。各部30分を基本単位とし、5名に5分ずつ発表していただいた後、5名全員への質疑応答を5分設けます。

【陸水学会若手の会 E 会】

宮下洋平（北海道大学）・高巢裕之（長崎大学）

9月28日（木）会議室1 20:00 - 懇親会

9月29日（金）会議室1 21:30 - 研究発表会

（会議室1はE会ブース）

陸水学会若手の会(E 会)は、「学生やポスドクなどがセミナーを通じて交流しよう」という趣旨のもと、毎年、大会期間中に開催し、自由な熱い議論を繰り広げています。今年のE会は、「E会に中堅以上の研究者を巻き込む」ことをコンセプトに掲げています。飛び入り自由、出入り自由、飲食自由ですので、ぜひ中堅以上の研究者の皆様も積極的にご参加ください。

また、大会期間中は終日、若手のたまり場としてE会ブースを設けております。空いた時間には是非お立ち寄りいただき、他大学の学生やポスドク研究者との交流の場としてご活用ください。自称若手、昔は若手だった方など、どなたでも大歓迎です。

こちらもぜひご参照ください。

陸水学会若手会（E会）HP：<http://ekaijsl.tumblr.com/>



【 企 業 展 示 】

2F ロビー

大会期間中、会場は2F ロビーにて大会参加企業による観測・測定機器等の展示・解説・導入相談を行っています。是非足をお運び下さい。

参加企業・団体

JFE アドバンテック

日科機バイオス

エス・イー・エイ

日本海洋（株）

ハイドロシステム開発

アムラボ

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

【 ランチョンセミナー 】

9月29日（金）12:15 -13:15 A会場

参加企業による観測・測定機器等の説明や導入・実践例をスライド等により解説していただきます。ふるってご参加下さい。

先着30名に昼食を差し上げます。

講演企業・団体（質疑応答含め15分）

エス・イー・エイ

日本海洋（株）

アムラボ

第17回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦2018）実行委員会

【懇親会のご案内】

9月30日（土） 18:30-21:00

ロイヤルホールにて懇親会を行います。懇親会に申し込まれた方はご出席下さい。酒類等の持ち込みも歓迎いたします。

【昼食のご案内】

大会期間中、2F ロビーにてお弁当を販売いたします。お部屋、もしくは休憩室にてお食べ下さい。なお、近隣には飲食店も数軒ございますが、営業時間等についてはご自身でご確認下さい。

【 公 開 講 演 会 】

「酸性化した田沢湖の現状と将来への取り組み」

2017年10月1日（日）

於 生保内小学校体育館

共催：秋田魁新報社

協力：仙北市役所

田沢湖は日本最深の湖ですが、国策事業により酸性化したため、クニマスは絶滅し生物相の乏しい湖になりました。しかし、田沢湖は重要な自然資本であり、本来の豊かな生物相の回復を目指した取り組みが必要です。そこで、この公開講演会では、陸水学会会員により世界の湖沼での環境問題への取り組みや、酸性環境での生物・生態系の特色について紹介します。一方、地元の行政担当者や研究者から、田沢湖の将来へ向けたビジョンや克服すべき問題点について紹介していただきます。それら講演を受けて、市民と湖の専門家である陸水学会員でパネルディスカッションを行い、将来へ向けた市民や研究者の取り組みについて、意見交換を行い議論します。



会場の生保内小学校体育館は JR 田沢湖駅から徒歩 12 分です。

プログラム

13:00 開会挨拶 (門脇 光浩 市長)

陸水学会員から

- 1) 13:05～13:35 生態系と社会における地球温暖化の影響と緩和策
(熊谷道夫:立命館大学教授)
- 2) 13:35～14:05 川虫の多様な暮らしと酸性水域に住む川虫たち
(谷田一三:大阪自然史博物館館長)

14:05～14:15 休憩

地元研究者から

- 3) 14:15～14:45 田沢湖の現状と将来について
(小田野直光:仙北市地方創生・総合戦略統括監)
- 4) 14:45～15:15 田沢湖にはアユやクニマスがいて漁師がいた
(杉山秀樹:秋田県立大学客員教授)
- 5) 15:15～15:45 田沢湖の中性化に向けた取り組みについて
(大沼克彦:大曲農業高校教諭、生徒有志:大曲農業高校生物工学部)

15:45～15:55 休憩

パネルディスカッション

- 6) 15:55～16:55 (モデレーター 占部城太郎:東北大学)
登壇者:各講演者、小松嘉和記者(秋田魁新報社)

16:55 閉会挨拶 (山室真澄 学会長)

【 エクスカーション 】

2017 年 10 月 1 日（日） 8:30 ～ 12:55

エクスカーションに申し込まれた方へ。

集合時間 10 月 1 日（日） 8:30

集合場所 ホテル入り口の前

ホテルをチェックアウトし、荷物を持ってお集まり下さい

コース概要

水深 423.4m、日本一の深さを誇る神秘的な田沢湖の風景を見ながら、田沢湖の陸水、クニマスの絶滅の経緯、そして復活への取り組みなどを紹介いたします（昼食付き）。

駒ヶ岳グランドホテル発 8:30 → 9:00 田沢湖畔のクニマス施設発
9:40 → 9:50 たつこ像・「富木友治詩碑」「浮木神社」10:30 → 10:45
御座石・御座石神社、牛岩、御座石の七色木、雨乞い石、石井露月句碑
11:15 → 11:25 共栄パレス（お土産など）11:55 → 12:10 生保内
小学校体育館（昼食）12:45 → 12:55 JR 田沢湖駅

RIGO

“水”に関するあらゆる調査・観測をサポートします。

創業 1878 年 永年の経験で培った豊富な経験と技術力により、
高い精度と信頼性を実現して貢献しています。

営業品目

採水器 採泥器 温度測定器 プランクトンネット 各種環境測定器

☆新製品☆



受信部

送信部

- ・ ワイヤレスTD計
- ・ リアルタイムで船上モニター表示
- ・ メモリ機能付
USB接続でPC読取
- ・ 送信部を採水器等に取付可能
- ・ 深度120m迄測定可能

音響式水温・深度計（採水器・プランクトンネット取付型）



シンドラートラップ



不攪乱柱状採泥器（HR型）

*詳細は当社までご連絡ください。

株式会社 離合社

さいたま事業所

〒336-0931 埼玉県さいたま市緑区原山 3-14-20

TEL:048-882-3086 FAX:048-811-1202

URL:<http://www.rigo.co.jp>

E-mail:info@rigo.co.jp

大阪営業所

〒543-0054 大阪市天王寺区南河堀町 9-43

(天王寺北口ビル 505)

TEL:06-6711-0022 FAX:06-6711-0033

bbe

moldaenke



植物プランクトンの蛍光特性を利用した多波長蛍光光度計



FluoroProbe (フルオプローブ)



Benthos Torch (ベントトーチ)



Algae Torch (アルジートーチ)



ユニークな各種溶存ガスセンサー

KONGSBERG



HydroC CO₂
二酸化炭素濃度計測



HydroFlash O₂
酸素濃度計測



HydroC CH₄
メタン濃度計測

vemco

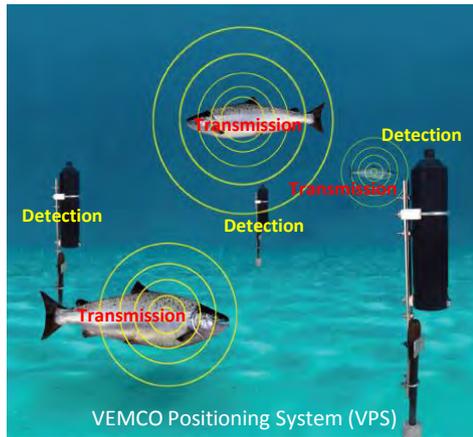
VPS : 魚類の生態研究分野で傑出した成果を提供する VEMCOの水中音響測位システム



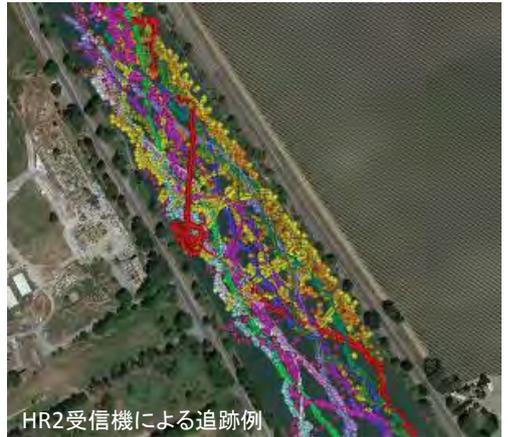
コード化ピンガー



HR2受信機



VEMCO Positioning System (VPS)



HR2受信機による追跡例

VR100受信機

EvoLogics®



SONOBOT : 調査用自律式水上ブイ



GNSS

WLAN

GNSS

測深装置

サイドスキャンソナー



小型軽量で、運搬や組立も容易

bp blueprint subsea

seatrak

シートラック : 超小型軽量な USBL & データモデム



X150 USBL
ビーコン

ROVに搭載した
X110ビーコン

ダイバーやAUVに搭載した
X110またはX150ビーコン

海底面の機器に設置した
X110モデム

ダイバーや小型ROVで利用可能



SeaTrac X150
(USBL)



SeaTrac X110



SeaTrac X010



日本海洋株式会社

〒120-0003

東京都足立区東和5-13-4 東和ビル

TEL:03-5613-8902 / FAX:03-5613-8210

<http://www.nipponkaiyo.co.jp/>



第 17 回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦 2018）開催！

○ **テーマ** 人と湖沼の共生 —持続可能な生態系サービスを目指して—

○ **趣旨概要**

人が湖沼と共に生きていき、生態系から得られる恵みである生態系サービスを将来にわたって持続的に享受するためには、どのようなことに取組むべきなのかを、住民、農林漁業者、事業者、研究者、行政など湖沼に関わりを持つ全ての人々が、情報の共有、意見交換を行います。湖沼の環境問題を解決するためには、皆様の御協力が欠かせません。積極的なご参加をお待ちしております。

○ **会議の概要**

- 【主 催】 茨城県，公益財団法人国際湖沼環境委員会（ILEC）
- 【共 催】 国土交通省，環境省，農林水産省，土浦市，つくば市，
かすみがうら市，銚田市，茨城町，水戸市，霞ヶ浦問題協議会，
ラムサール条約登録湿地ひぬまの会
- 【会 期】 平成 30 年 10 月 15 日（月）～19 日（金）
- 【会 場】 つくば国際会議場ほか
- 【会 議 構 成】 基調講演，分科会（口頭・ポスター），政策フォーラム，
霞ヶ浦セッション，湖沼セッション，サテライトセッション，
学生会議，いばらき霞ヶ浦賞授賞式，展示会，
エクスカージョン，ワークショップ等
- 【会議の公用語】 英語及び日本語
- 【参加者・規模】 市民，研究者，企業，行政担当者 4,000 名
- 【参 加 料】 有料

【お問い合わせ】

第 17 回世界湖沼会議（いばらき霞ヶ浦 2018）実行委員会事務局
〒310-8555 茨城県水戸市笠原町 978 番 6 茨城県生活環境部環境対策課内
TEL 029-301-2995（平日 8:30～17:15）
E-mail: wlc17@pref.ibaraki.lg.jp
ウェブサイト で検索！



◆JLIM82 大会実行委員会

占部 城太郎 (東北大学) 牧野 渡 (東北大学) 鹿野 秀一 (東北大学)
藤林 恵 (秋田県立大学) 安野 翔 朴 虎東 (信州大学)

◆協力

楊 宗興 (東京農工大) 岩田 智也 (山梨大学) 大八木 英夫 (日本大学)
鏡味麻衣子 (東邦大学) 高巢 裕之 (長崎大学) 土居 秀幸 (兵庫県立大学)
野崎健太郎 (椛山女学園大学) 源 利文 (神戸大学)

◆協力団体

仙北市役所・地方創生・総合戦略室

本大会は仙北市の助成により実施しています。

秋田魁新報社 (公開講演会共催)

◆問い合わせ先

大会実行委員会 limnology82@gmail.com

〒980-8578 仙台市青葉区荒巻字青葉 東北大・生命
陸水学会 http://www.jslim.jp/?page_id=154

◆会場



0187-46-2211



駒ヶ岳グランドホテル HP

<http://sanrok-komagatake.com/>



大会 HP

<http://tohokuecology.jp/limnology82/index.php>